

論 文

中学校音楽科教科書にみる沖縄音楽の取り扱い
—教育芸術社、教育出版を対象として—

Teaching Okinawan Music from Junior High School Music Textbooks
: A Comparison of the Kyouiku-Geijyutsu-Sha and Kyouiku-Syuppan Editions

高橋美樹 (高知大学教育学部・音楽学研究室)

Miki TAKAHASHI

Laboratory of Musicology, Faculty of Education, Kochi University, Kochi, Japan

ABSTRACT

Many traditional folk songs and children's songs have been handed down from generation to generation as the common property of Okinawan communities. The purpose of this study is to analyze the types of Okinawan musical works present in junior high school music textbooks and how this music is taught. Two music textbooks were analyzed: Kyouiku-Geijyutsu-Sha and Kyouiku-Syuppan. Six conclusions were drawn from the results. First, the selection of Okinawan music is limited to five songs (*Asadoya-Yunta*, *Tanchame*, *Teinsagu-nu-Hana*, *Toubaraama*, and *Tsuki-nu-kaisha*). Second, *Tanchame* was chosen as the teaching material for the two alto recorders ensemble. *Teinsagu-nu-Hana* was chosen as the teaching material for ensembles of alto recorders, castanets, and snare drums. Third, sheet music using the Okinawan scale (i.e., do, mi, fa, sol, si) was found in 1997 and 2007, and *Tanchame* was mentioned as an example. *Tsuki-nu-kaisha* was introduced as an example of the Ritsu scale (i.e., do, re, fa, sol, la) in 2012. Fourth, a picture of a *sanshin* (long-necked plucked lute) appeared as a type of folk musical instrument in 1980 and 1990. Fifth, a picture of the Okinawan traditional dances *Yotsu-Dake*, *Syochikubai*, *Paarankuu*, and *Kanayo-Amakawa* was introduced in the unit entitled "Japanese Music" or "folk songs in a hometown." A picture of *Eisa* (the Okinawan bon-dance) appeared after 1997. A picture of the dance in *Kumi-Odori* (the Okinawan traditional drama) with a cast and program was introduced in 2012. Sixth, *Shima-uta* and *Nada-so-so*, as examples of Japanese pop songs, were used as teaching materials for songs after 2002.

はじめに

沖縄には《安里屋ユンタ》《谷茶前》《ていんさぐぬ花》など数多くの民謡やわらべうたが存在する。これらの歌は沖縄という地域社会の共有財産として伝承されてきた。沖縄音楽の特徴として、(1)歌詞が琉球方言であること、(2)沖縄音階または律音階でメロディーができていないこと、(3)三線や三板など琉球楽器で伴奏すること、の3点が挙げられる。筆者は《安里屋ユンタ》という沖縄を代表する歌が全国に伝播、普及したプロセスをレコードの分析を通して明らかにしてきた(高橋 2015 参照)。特筆すべきは、レコードというマスメディアを通して普及した歌が同時代に流行した音楽の影響を受け、使用楽器やアレンジ方法に表れていたことである。そして、《安里屋ユンタ》は男女共に子どもから若者、壮年層まで幅広い世代の歌手によってレコーディングされていた。

一方、学校教育において音楽科の授業で扱う教材は小学生から高校生まで、6歳から18歳までの児童・生徒に向けて提供される。本稿は不特定多数の大衆を想定したポピュラー音楽とは異なり、年齢上限定された学校教育における音楽科教科書に着目し、沖縄音楽に関する教材選定を辿る。

本稿の目的は中学校音楽科教科書において、沖縄の音楽のどのような作品がいかなる方法で取り上げられていたのかを明らかにすることである。教科としての音楽は小学校、中学校、高等学校の教育課程に設置されている。しかし、小学校では学級担任が音楽の授業を担当することを基本としており、音楽専科の教員を置いている学校は限定的である。また、高等学校では音楽、美術、書道などから選択する教科として設置している学校が多く、高等学校に進学する全ての生徒が音楽の授業を受講するとは限らない。よって、本稿では専任の音楽教員が配置されている中学校の音楽科教科書を分析の対象とする。音楽科教科書を発行している出版社として、教育芸術社と教育出版を取り上げ、個別に整理し考察する。

1 教育芸術社の中学校音楽科教科書(表1参照)

初めて、沖縄の音楽が中学校音楽科教科書に登場するのは1973年発行、中学1年生対象の『中学生の音楽1』である。「ふるさとの歌めぐり」という単元において、2ページに亘り日本地図が掲載された。沖縄県は1972年に日本本土に復帰し、その翌年の1973年に『中学生の音楽1』が発行された。このような政治状況の変化により、沖縄県の音楽を取り上げるに至ったと推察される。沖縄本島の地図の右側に民謡の曲名《安里屋ユンタ》が記されている。《安里屋ユンタ》には大別すると2つの種類が存在する。「まず1つ目は、八重山諸島に伝わり八重山地

方の方言で歌われる古謡《安里屋ユンタ》である。2つ目は、1934(昭和9)年に星克が共通語で作詞し、メロディーは古謡を基盤とし、宮良長包が編曲した新民謡《安里屋ユンタ》である(高橋 2015: 204)。同書に掲載されているのは古謡《安里屋ユンタ》であった。

この単元で歌の楽譜や歌詞が掲載されているのは、近畿地方の民謡《申本節》、四国地方の民謡《よさこい》、関東地方の民謡《大漁節》、そして、東北地方のわらべ歌《もっこ》の計4曲である。ここでは日本の音階として2種類の「陽音階」、1種類の「陰音階」が紹介されており、沖縄音階は取り上げられていない。教育芸術社の中学校音楽科教科書において《安里屋ユンタ》が掲載されたのは、1973年『中学生の音楽1』と1976年『中学生の音楽1』の2冊のみである。

その後、1977年『中学生の音楽1』では同様の日本地図が掲載されたものの、沖縄県の音楽が《安里屋ユンタ》から《ていんさぐぬ花》へと曲名が変更されている。《ていんさぐぬ花》の単旋律楽譜が掲載され、歌詞の下には意識が示されている。《ていんさぐぬ花》は沖縄を代表するわらべうたである。「ていんさぐ」とは琉球方言で鳳仙花を意味し、「ていんさぐぬ花は爪先に染めて、親の教えは心に染めなさい」(ラジオ沖縄編 1994: 16)という教訓歌である。

1983年から2002年までは「郷土の音楽」という単元の中に、各地の民謡が紹介されるようになった。沖縄県民謡としては《谷茶前》が掲載されている。《谷茶前》は「谷茶前浜が豊漁に湧きかえり、魚を捕ってきた男たちと、それを売りに出る女たちの楽しげな語らいの、のどかな漁村風景を」(長田・千藤 1998: 367)描いた曲である。《谷茶前》の楽譜上段には歌詞と単旋律、下段には三味線の伴奏が付されている。同単元では各地の民謡を「拍子のはっきりしたもの」「拍子のはっきりしないもの」の2種類に区分しており、《谷茶前》は「拍子のはっきりしたもの」の代表例として、《金びら船々》とともに楽譜付きで掲載された。なお、2006年以降は単元「日本の民謡」の中で《谷茶前》を扱っている。

1986年『中学生の音楽1』では沖縄音階と明記されていないが、《谷茶前》のメロディーに用いられる音階「♪ド・(レ)・ミ・ファ・ソ・シ・ド」を日本の音階の1つとして取り上げた。さらに、《谷茶前》の歌詞が示す、浜で魚取りをする風景を描いた挿絵も添えられた。教科書の中で「沖縄音階」と明確に示されたのは1993年『中学生の音楽1』である。

2012年『中学生の音楽1』では単元「日本の民謡」において、各都道府県を代表する民謡が日本地図とともに示された。沖縄県民謡として《谷茶前》が紹介され「三

線の躍動的なリズムによって歌われる踊り歌です。沖縄音階によって生み出される独特の味わいが感じられます¹⁾と解説している。「躍動的なリズム」とはシャッフル（跳ねるリズム）を表す。沖縄音階とシャッフルという沖縄民謡独特の音楽要素が解説に盛り込まれた。

1997年『中学生の音楽1』と2002年『中学生の音楽1』では単元「郷土の音楽」の中で「エイサー」が紹介されている。エイサーとは「旧暦7月15日頃、旗持ちや三味線、踊り子などからなる男女の行列が念仏唄や民謡を歌い踊り、集落の各戸を回る²⁾」沖縄の盆踊りを指す。同単元では、エイサーに関する解説文や演舞の写真も掲載されている。2006年『中学生の音楽1』では単元「郷土の音楽」でエイサーの音楽を紹介し、同年『中学生の音楽2・3下』では単元「郷土の芸能」でエイサー祭りを取り上げた。沖縄市嘉間良青年会が大太鼓を打ち鳴らす写真の上部に「『エイサー』とは、祖先の霊を慰めるための踊りと音楽で、沖縄県内の各地にさまざまなものが伝わっています、それらによる『エイサー祭り』というイベントが、夏の行事として盛んに行われます」と解説が付された。2012年『中学生の音楽2・3上』では単元「日本の郷土芸能」の中で、エイサーが紹介された。「近年では沖縄県外でも催されるようになりました、『エイサー』は、もともと歌と踊りによるものでしたが、今では太鼓を力強くたたきながら踊るスタイルが多くなっています³⁾と説明している。

2012年には『中学生の音楽2・3下』の単元「能が諸芸能に与えた影響」において、組踊くみおどりが初めて掲載されている。組踊とは「18世紀初めに沖縄で創始され、今日まで伝承されている楽劇。…中略…沖縄に古くから伝わる音楽と舞踊を総合的に取り入れ、一つの物語を形成した戯曲⁴⁾」を指す。同単元では組踊以外に能と歌舞伎、文楽を取り上げ、代表的な作品の写真と配役が記された。同書では組踊を「沖縄の伝統芸能」と解説しており、代表的な演目『執心鐘入』の舞台写真とともに「鬼女：宮城能鳳」と役名と演者が付されている。宮城能鳳(1938-)は2006年に組踊の立方として重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された人物である。また、組踊は2010年ユネスコ無形文化遺産保護条約に基づく「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に登録された。2012年、音楽科教科書に初めて組踊を取り上げた要因として、人間国宝の存在や世界無形文化遺産への登録が挙げられる。

2012年『中学生の器楽』では単元「三味線」の中で、和楽器こぼれ話「三味線と三線」という項目を設けている。三線について「沖縄や奄美地方で使われる三味線と似た構造の楽器⁵⁾」と解説し、中国から渡来した三弦が沖縄の三線、さらに日本の三味線へと変化し伝えられた

ことを示している。そして「三線は現在も沖縄地方の音楽で重要な役割を果たしています⁶⁾」と沖縄音楽には必要不可欠な楽器として明記し、三線の写真も掲載された。

2012年の音楽教科書では『中学生の音楽1』に民謡《谷茶前》、『中学生の音楽2・3上』にエイサー、『中学生の音楽2・3下』に組踊、『中学生の器楽』に三線と、沖縄音楽の基層をなす楽器、楽曲、舞踊、演劇が学年をまたいで総合的に取り上げられている。

2 教育出版の中学校音楽科教科書（表2参照）

初めて沖縄の音楽が教科書に登場するのは1957年中学2年生対象の『総合 中学生の音楽2』である。単元「歌の花かご」の中に《安里屋ユンタ》の2部合唱用の楽譜が掲載されている。「♪サー」「♪ヨサ ユイユイ」「♪マタハーリヌ チンダラ カヌシャマヨ」の囃子部分は〔 〕で括られ、歌詞と区別して示された。全国的には1934年にレコード化された共通語の歌詞(作詞:星克)が知られているが、同教科書では八重山方言による古謡《安里屋ユンタ》の歌詞「♪あさどやのくやまによ」が採用された。

1965年『新版標準 中学音楽1』の単元「日本の民謡」には日本地図が掲載されている。しかし、沖縄県は地図に含まれていない。発行年の1965年当時はまだ沖縄が本土復帰していなかったからだと推察される。ただ、同単元には《安里屋ユンタ》の単旋律楽譜が掲載されており、「沖縄地方民謡」という表記がみられる。

1968年『新訂標準 中学音楽1』では単元「日本の民謡」の中に日本地図とは別枠で沖縄県の地図が追加され、沖縄民謡《谷茶前》が紹介されている。同教科書内の単元「歌の花かご」には《安里屋ユンタ》が掲載され(図1参照)、単旋律楽譜に八重山方言による古謡の歌詞とその大意、さらに「チンダラ」「カヌシャマ」の意味が示された。楽譜の右上には「沖縄教育音楽協会採譜」と記されている。

1968年『新訂標準 中学音楽3』の単元「歌の花かご」に《荒磯の歌》(詞:宮里静湖、曲:宮良長包)が取り上げられた。大山伸子の研究によると同曲は昭和10(1935)年「実際に(筆者註:宮良)長包は久米島に赴き、この曲の元歌、久米島民謡『久米の阿嘉の鬚水』の旋律を採譜し、そのメロディーモチーフをベースに作曲した」(大山2009:42)という。歌詞は共通語であり、単旋律楽譜の右上には「沖縄の歌」と記された。なお、同曲は1972年『新版標準 中学音楽3』にも掲載されている。

1971年『新版標準 中学音楽1』では「日本の民謡やわらべ歌を歌う」単元の中に《安里屋ユンタ》の単旋律楽譜が掲載されている。楽譜は1968年発行と同じもの

あさどや
安里屋ユンタ

沖 縄 民 謡
沖縄教育音楽協会採譜

♩ = 72
mp

サ あさどー やぬー く やー まにー

よ サ ユイ ユイ あんちゅら さー う まり

ば しー よ マタ ハーリヌ チンダラ カヌシャマ ヨ

「安里屋ぬ くやまによ (サアユイユイ) あん美らさ 生りばしよ
マタ ハーリヌ チンダラ カヌシャマヨ」

大意…竹富島のはざま村の安里(あさど)という家にくやまという美しい娘が生まれま
した。 チンダラ(かわいらしい) カヌシャマ(すきな人)

図1 楽譜《安里屋ユンタ》1968『新訂標準 中学音楽1』教育出版(番号7018) p.65

だが、歌詞はメロディーの下部分に示されたもの以外、大意や言葉の意味などは記されていない。同教科書の単元「日本の音楽」には写真「沖縄の踊り」が掲載されている。写真には花笠をかぶり紅型衣装を身にまとった女性2人が四つ竹を打ち鳴らす様子が見て取れる。このことから、琉球古典舞踊「四つ竹」(一名：踊りくわでさ節)を表す写真だと推察される。同写真は1977『改訂標準 中学音楽1』単元「日本の音楽」でも使用された。

1971年『新版標準 中学音楽2』には「日本民謡」の項目に初めて八重山民謡《月ぬかいしゃ》が登場する。《月ぬかいしゃ》は八重山諸島で歌われる子守歌である。《安里屋ユンタ》と同様に「沖縄教育音楽協会採譜」と記され、単旋律楽譜と歌詞の大意「月の美しいのは十三夜 娘の美しいのは十七才」⁷⁾が示されている。1977『改訂標準 中学音楽3』にも1971年発行と同様の《月ぬかいしゃ》単旋律楽譜と歌詞の大意が掲載された。

1978年『新版 中学音楽1』では単元「日本の民謡をたずねて」において日本地図に沖縄県が別枠で設けられ、《安里屋ユンタ》が沖縄県民謡として紹介された。単旋律楽譜が掲載されているが、1968年発行『新訂標準 中学音楽1』にて沖縄教育音楽協会採譜とされた楽譜とはリズムが数ヶ所異なっており、歌詞の表記に相違がみられる。また同単元には「沖縄の踊り」と称する写真が掲載された。髪や装身具や小道具から舞踊「松

竹梅」の写真だと推察される。さらに、「特徴と聞きどころ」の項目に「日本民謡は、主に陽音階・陰音階、そして、琉球音階などの音階できている。それぞれの音階の特徴を理解し、いろいろな民謡がどの音階できているか聞き分けよう」⁸⁾という解説が付された。琉球音階の構成音は具体的に示されていないが、教育出版の教科書の中で「琉球音階」に関する解説は1978年発行の同書が初出である。ただ、掲載した《安里屋ユンタ》のメロディーは琉球音階ではなく律音階できている、この点を編集担当者が認識していたかは不明である。なお、《安里屋ユンタ》は1978年の同書以後掲載されていない。

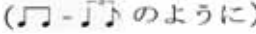
1984年『改訂 中学音楽1』では単元「郷土の音楽」の中に《ていんさぐぬ花》を取り上げている。日本地図の別枠に沖縄県を設け、《ていんさぐぬ花》の単旋律楽譜が掲載された。歌詞は琉球方言であるため、歌詞の意味が下段に示されている。さらに同書にはパーラunker(片面太鼓)を用いた女性舞踊家2人の写真「沖縄の踊り」が掲載された。

1984年『改訂 中学音楽3』では単元「郷土の音楽／郷土の民俗芸能」の中に、「その他の民俗芸能」として、沖縄県の組踊を挙げている。

1987年『新訂 中学音楽1』では単元「郷土の民謡」で《ていんさぐぬ花》を取り上げた。単旋律楽譜と歌詞及び歌詞の意味は1984年発行『改訂 中学音楽1』と同様だが、写真「沖縄の踊り」が異なる。女性は衣

装の右肩袖を抜き、男性は柄杓を手に行っているため、舞踊「加那よ一天川」^{あまかわ}の写真だと推察される。1990年発行『改訂 中学音楽1』には1984年発行『改訂 中学音楽1』と全て同内容の楽曲と写真が掲載された。また、1990年『改訂 中学音楽1』には単元「日本といろいろな民族の音楽」の中で《谷茶前節》を紹介し、三線の絵とともに「伴奏には、三線（蛇の皮を張った三味線の一種）が用いられている」⁹⁾と解説した。世界の民族楽器を管楽器、弦楽器、打楽器に分類し紹介した単元であり、弦楽器の1つとして沖縄の三線が取り上げられたといえる。

一方、器楽の教科書に着目すると、1987年『新訂 中学生の器楽』に木村博文編曲《ていんさぐぬ花》が器楽合奏曲として掲載された。アルトリコーダー1、アルトリコーダー2、カスターネット、小太鼓の4パートによる楽器編成で、4分の4拍子に編曲されている。同じ編曲楽譜は1990年『改訂 中学生の器楽』、1993年『新版 中学器楽』、1997年『中学器楽』にも連続して掲載された。

1997年『中学器楽』には江口康央編曲による《谷茶前》がアルトリコーダーの二部合奏曲として掲載された。「軽やかに、はずんで  のように」と表現に関する指示がみられる。続いて2002年『中学器楽 音楽のおくりもの』には、滝口亮介編曲による《谷茶前》がアルトリコーダー二部合奏曲として掲載された。楽器編成は木村博文編曲と同様だが、前奏4小節のシャッフルのリズムが主旋律への動機付けとなっている。

1997年『中学音楽2・3上』では単元「郷土の民謡」に「日本の民謡の音階」として陽音階、陰音階、沖縄音階の3種の5音音階を紹介している。音階の構成音を示した楽譜及び例とする曲名を記した。沖縄音階は「♪ド・ミ・ファ・ソ・シ・ド」の構成音ともに、例として《谷茶前》の冒頭のメロディー譜と歌詞が示されている。同書の編集・執筆には沖縄音楽研究者の加藤富美子が名を連ねていた。

2002年『中学音楽1 音楽のおくりもの』の単元「日本の祭りの音楽と芸能」では沖縄県の芸能としてエイサーが紹介されている。写真はなく、日本地図の沖縄県の位置に数字が付され、⑱エイサー（沖縄県）と記載されている。

2002年『中学音楽2・3下 音楽のおくりもの』では単元「日本の民謡～くらしの中の歌～」に沖縄県民謡として《とうばら一ま》《月ぬ美ししゃ》の2曲を取り上げた。「日本の民謡は、その内容によって仕事歌（田畑・山・海・その他）、祝いごとの歌、踊り歌、楽しみた

めの歌、子もり歌などに大きく分けることができる」と解説した。⑳《とうばら一ま》は「楽しみ」の1曲として、㉑《月ぬ美ししゃ》は「子もり歌」の1曲として紹介している。楽譜や歌詞の記載はなく、日本地図の別枠に沖縄県を設け、2曲の番号が振られている。2002年の同書で初めて登場した《とうばら一ま》は代表的な八重山民謡であり「ゆったりとしたテンポで、朗々と大きな弧を描くように歌う…中略…喜びや悲しみ、とりわけ親子や男女の情愛を歌い上げた抒情的な歌詞が多い」（金城2006:128）。

2007年『中学音楽1 音楽のおくりもの』では単元「日本の民謡と芸能」に《谷茶前》《月ぬ美ししゃ》2曲を取り上げた。日本地図の左上に沖縄県の地図を掲載し、沖縄本島の上部に《谷茶前》、八重山諸島の上部に《月ぬ美ししゃ》と記している。実際に歌われている地域に基づき、曲名を明記したことがわかる。また、次頁の項目「民謡の魅力」では拍、音階、コブシ、囃しことばの特徴を挙げ、4種類の音階（律音階、都節音階、沖縄音階、民謡音階）と代表的な曲名を示した。1997年『中学音楽2・3上』では3種の5音音階（陽音階、陰音階、沖縄音階）を紹介したのに対し、2007年『中学音楽1 音楽のおくりもの』では音階の種類と数に変化している。なお、沖縄音階の代表曲として《谷茶前》を取り上げたのは、1997年版、2007年版に共通する。2007年版は1997年版と同様、編集・執筆に沖縄音楽研究者の加藤富美子が名を連ねている。

2012年『中学音楽1 音楽のおくりもの』では単元「日本の民謡と芸能」に2007年版と同様の《谷茶前》《月ぬ美ししゃ》を掲載した。楽しみのための歌として《谷茶前》、子守歌として《月ぬ美ししゃ》を取り上げた。音階の種類と数は2007年版と同じだが、律音階の代表曲として《月ぬ美ししゃ》を挙げたのは特筆に値する。一般的には、沖縄民謡のほとんどが沖縄音階でできていると捉えられている。しかし、八重山諸島の民謡は律音階のものが多く、《安里屋ユンタ》がその代表例である。この点を踏まえ、律音階と《月ぬ美ししゃ》の結びつきを明記した同書は、沖縄音楽研究の成果を反映したといえるだろう。

2007年『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』の単元「音楽の広場」に《月ぬ美ししゃ》の単旋律楽譜が掲載され、歌詞と意識も示された。採譜・構成を担当した宮里尚子は、1番と2番のメロディーを音符の大小で区別し、中学生にわかりやすく楽譜化している。また、方言で歌われるため、特に2番の歌詞の一部に注を付け「沖縄各地で歌われていますが、地域によって発音が異なります」¹⁰⁾と解説を加えた。さらに「民謡

は歌手によって節などが変わります¹¹⁾と民謡のメロディーは個人の歌唱法によって変化することを伝えている。同書の楽譜は2012年『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』の単元「歌のアルバム」にも掲載されている。

2007年『中学音楽2・3下 音楽のおくりもの』の単元「音楽の広場」に《とうばら一ま》の単旋律楽譜が掲載され、歌詞と意識も示された。楽譜右上には「沖縄県民謡 採譜編曲:普久原恒勇」と記されている。同楽譜は沖縄出身の作曲家・普久原恒勇が『五線譜による沖縄の民謡』(1971年発行:1991年第四版)に掲載した《とうばら一ま》と同一である。1991年第四版の《とうばら一ま》楽譜にはコードネームの表記がみられるが、2007年『中学音楽2・3下 音楽のおくりもの』の楽譜では削除されている。また、速さの設定は1991年第四版が「J=71」に対し、2007年同書は「J=72くらい」と修正している。普久原が過去に採譜した《とうばら一ま》の楽譜を基に、教科書用に編集した上で掲載したと考えられる。

2007年『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』の単元「Let's Sing」で《谷茶前》の単旋律楽譜が歌詞及び意識とともに紹介された。別枠には伴奏として、三線、三板、締太鼓、大太鼓による2小節の基本リズム・パターン楽譜が示されている。三板によるトレモロ奏法の実例が2種類示された。文字通り三枚の板を打ち鳴らす「三板」の図と、女性が三板を演奏する姿が描かれている。「採譜編曲:宮里尚子」と記載があることから、伴奏の編曲も宮里が担当したと思われる。2012年『中学音楽2・3下 音楽のおくりもの』の単元「郷土の民謡を味わおう」にも、宮里尚子の採譜編曲による《谷茶前》が取り上げられた。楽譜下部には「R…アルトまたはソプラノ・リコーダーでも演奏してみましよう¹²⁾」という指示があることから、2007年版とは異なり、歌唱とリコーダー両方で使用することを想定した楽譜だといえる。

沖縄民謡のジャンルには属さないものの、沖縄音楽の特徴的な要素を取り込んだJ-POP作品が2曲ある。

1曲目は2002年『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』の単元「音楽の広場」で取り上げた《島唄》(作詞作曲:宮沢和史)である。1993年にTHE BOOMが歌い大ヒットした《島唄》は、バンド編成のボーカルが三線弾き語りで歌うスタイルにより、テレビ番組を通じて注目を集めた。沖縄音階を使用し、後半では沖縄音楽特有のオフビート(裏拍)が連続し終結部に向かう。同書では赤石敏夫が混声三部合唱用に編曲し、コードネームを付している。歌詞は共通語だが、一部琉球方

言の「でいご」「ウージ」が使われており、「でいご…沖縄県の県花として知られる熱帯の植物」「ウージ…さとうきび¹³⁾」と解説している。なお、2007年『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』にも同単元に上記と同じ《島唄》の編曲譜が掲載された。

2曲目は2007年『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』の単元「音楽の広場」で紹介された《涙そうそう》(作詞:森山良子、作曲:BEGIN)である。2000年石垣島出身の3人組BEGINがCD発売後、2002年に同島出身の夏川りみがカバーし、全国的なヒットに結びついた。同書には島袋大の採譜による単旋律楽譜が掲載され、コードネームも表記した。曲名の《涙そうそう》が琉球方言であるため、「涙そうそう…沖縄の言葉で『涙がとめどなく流れる』¹⁴⁾」と解説している。

まとめ

これまでの考察は以下6点にまとめることができる。

(1)【選曲】

沖縄音楽における選曲は《安里屋ユンタ》《谷茶前》《ていんさぐぬ花》《とうばら一ま》《月ぬ美しゃ》の5曲に限定されている。特に、日本地図を活用した単元では1965年から1997年は沖縄県民謡として《安里屋ユンタ》《谷茶前》《ていんさぐぬ花》から1曲を選定していた。その後、2002年に民謡の内容に基づく選曲へと移行し、楽しみの曲として《とうばら一ま》、子守唄として《月ぬ美しゃ》を取り上げた。2012年には民謡の内容と音階の双方に視点を当て、沖縄音階は《谷茶前》、律音階は《月ぬ美しゃ》を選曲した。

(2)【器楽の教材】

アルトリコーダー二部合奏の教材として《谷茶前》を選択した。アルトリコーダー、カスタネット、小太鼓の合奏においては《ていんさぐぬ花》を取り上げた。

(3)【音階】

1997年、2007年に沖縄音階の構成譜を掲載し、使われている曲として《谷茶前》を挙げた。2012年には沖縄音階に加え、律音階の代表曲として《月ぬ美しゃ》を紹介した。

(4)【琉球楽器(三線・三板)】

1980年、1990年には世界の民族楽器の1種として三線の絵が掲載され、楽器構造に関する解説が示された。また、三味線が中国、琉球(沖縄)、日本本土へ渡ってきた歴史をふまえ、三線と三味線を比較する説明もなされた。2007年には《谷茶前》を歌う伴奏楽器として

三線、三板を取り上げ、琉球楽器を使用した編曲譜が掲載された。

(5) 【舞踊・組踊】

単元「日本の音楽」「郷土の民謡」の中で、琉球舞踊「四つ竹」「松竹梅」「パーランクー」「加那よ一天川」の写真が紹介された。1997年以降はエイサー祭りやエイサーを演舞する写真が掲載された。1984年に初めて登場した組踊は、2012年に写真と演目・配役が紹介された。

(6) 【J-POP 作品】

2002年には沖縄音楽の諸要素を導入した《島唄》が、混声三部合唱用に編曲され、掲載された。2007年には琉球方言を曲名に採用した《涙そうそう》が歌唱教材として取り上げられた。

この選曲は、1990年代以降の日本のポピュラー音楽界において、沖縄音楽の諸要素や三線を取り入れた作品に注目が集まり、普及した現象を反映している。

謝辞

本論をまとめるにあたり、公益財団法人教科書研究センター附属教科書図書館に貴重な教科書及び文献資料を御提供いただいた。ここに記して感謝申し上げます。

注

- 1) 2012『中学生の音楽 1』教育芸術社、p. 47（教科書番号：723）
- 2) 2013「エイサー」『デジタル大辞泉プラス』小学館
- 3) 2012『中学生の音楽 2・3 上』教育芸術社、p. 46（教科書番号：823）
- 4) 當間一郎 2001「組踊」『日本大百科全書』小学館
- 5) 2012『中学生の器楽』教育芸術社、p. 33（教科書番号：772）
- 6) 2012『中学生の器楽』教育芸術社、p. 33（教科書番号：772）
- 7) 1971『新版標準 中学音楽 2』教育出版、p. 43（教科書番号：804）
- 8) 1978『新版 中学音楽 1』教育出版、p. 68（教科書番号：710）
- 9) 1990『改訂 中学音楽 1』教育出版、pp. 46-47（教科書番号：710）
- 10) 2007『中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの』教育出版、p. 47（教科書番号：805）
- 11) 2007『中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの』教育

出版、p. 47（教科書番号：805）

12) 2012『中学音楽 2・3 下 音楽のおくりもの』教育出版、p. 19（教科書番号：821）

13) 2002『中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの』教育出版、p. 46（教科書番号：801）

14) 2007『中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの』教育出版、p. 39（教科書番号：805）

参考文献

- 大山伸子 2009「宮良長包の音楽教育活動に関する研究 (6)－作品研究 3(昭和篇-(2))－」『沖縄キリスト教短期大学紀要』37集、pp. 31-60
- 金城厚 2006『沖縄音楽入門』音楽之友社
- 高橋美樹 2015「《安里屋ユンタ》の伝播・普及プロセス－レコードの分析を中心として－」『高知大学教育学部研究報告』75号、pp. 203-232
- 長田暁二・千藤幸蔵編 1998『日本の民謡 西日本編』社会思想社
- 普久原恒勇編著 1971（初版）『五線譜による沖縄の民謡』マルフレコード（1991年第四版）
- ラジオ沖縄編 1994『沖縄の歌 100選』琉球新報社

表1 中学校音楽教科書にみる沖縄音楽 —教育芸術社の場合— (作成:高橋美樹)

発行年	教科書名	番号	単元	音楽ジャンル	曲名	掲載内容
1973	中学生の音楽1	音楽701	ふるさとの歌めぐり	沖縄地方	安里屋ユンタ	日本地図に沖縄あり/曲名のみ
1976	中学生の音楽1	音楽705	ふるさとの歌めぐり	沖縄地方	安里屋ユンタ	日本地図に沖縄あり/曲名のみ
1977	中学生の音楽1	音楽708	ふるさとの歌めぐり	沖縄地方	ていんざぐぬ花	日本地図に沖縄あり/単旋律楽譜/意訳
1980	中学生の音楽2	音楽802	世界の民族音楽(民族楽器)	弦楽器	沖縄の三味線(三線)	世界地図に日本・沖縄/三線の絵
1983	中学生の音楽2	音楽805	世界の民族音楽(民族楽器)	弦楽器	沖縄の三味線(三線)	世界地図に日本・沖縄/三線の絵
1983	中学生の音楽3	音楽905	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり/楽譜上段=旋律,下段=三味線/歌詞一部訳
1986	中学生の音楽1	音楽708	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	単旋律楽譜/歌詞意訳/音階(ド-レ-ミ-ファ-ソ-シ-ド)/漁村風景画
1986	中学生の音楽3	音楽908	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり/楽譜上段=旋律,下段=三味線/歌詞一部訳
1989	改訂 中学生の音楽1	音楽711	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	単旋律楽譜/歌詞意訳/音階(ド-レ-ミ-ファ-ソ-シ-ド)/漁村風景画
1989	改訂 中学生の音楽3	音楽911	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり/楽譜上段=旋律,下段=三味線/歌詞一部訳
1993	中学生の音楽1	音楽703	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	単旋律楽譜4小節/沖縄の音階(ド-ミ-ファ-ソ-シ-ド)/舞踊の写真
1996	中学生の音楽2・3上	音楽803	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり
1997	中学生の音楽1	音楽709	郷土の音楽	エイサー祭り		日本地図に沖縄あり/エイサー祭り解説文/演舞の写真
2000	中学生の音楽2・3上	音楽809	郷土の音楽(民謡)	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり
2002	中学生の音楽1	音楽703	郷土の音楽	エイサー		日本地図に沖縄あり/エイサー解説文/演舞の写真
2002	中学生の音楽2・3上	音楽803	郷土の音楽	沖縄県民謡	谷茶前(踊り歌)	日本地図に沖縄あり/単旋律楽譜/解説文/舞踊の写真
2006	中学生の音楽1	音楽707	郷土の音楽	エイサーの音楽		日本地図に沖縄あり
2006	中学生の音楽2・3上	音楽807	日本の民謡	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり/解説「民謡をもとにしたポップスが人気」
2006	中学生の音楽2・3下	音楽808	郷土の芸能	エイサー祭り		エイサー祭り解説文/演舞の写真(沖縄市嘉間良青年会)
2012	中学生の音楽1	音楽723	日本の民謡	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり/解説「三線の躍動的なリズム/沖縄音階」
2012	中学生の音楽2・3上	音楽823	日本の郷土芸能	エイサー		エイサー解説文/演舞の写真
2012	中学生の音楽2・3下	音楽824	能が諸芸能に与えた影響	組踊		沖縄の伝統芸能「執心鐘入」舞台の写真,鬼女:宮城能鳳
2012	中学生の音楽	音楽772	三味線	三味線と三線	三線	三線の構造や歴史を解説/三線の写真

表2 中学校音楽科教科書にみる沖縄音楽 —教育出版の場合— (作成:高橋美樹)

発行年	教科書名	番号	単元	音楽ジャンル	曲名	掲載内容	作詞作曲編曲
1957	総合 中学生の音楽2	中音855	歌の花かご	沖縄民謡	安里屋ユンタ	二部合唱楽譜	
1965	新版標準 中学音楽1	音楽7011	日本の民謡	沖縄地方民謡	安里屋ユンタ	日本地区に沖縄なし/単旋律楽譜	
1968	新訂標準 中学音楽1	音楽7018	日本の民謡	沖縄民謡	谷茶前	日本地区に沖縄あり/曲名のみ	
1968	新訂標準 中学音楽1	音楽7018	歌の花かご	沖縄民謡	安里屋ユンタ	単旋律楽譜/歌詞意識/沖縄教育音楽協会採譜	
1968	新訂標準 中学音楽3	音楽9018	歌の花かご	沖縄の歌	荒磯の歌	単旋律楽譜/歌詞共通語	詞:宮里静湖 曲:宮良長包
1971	新版標準 中学音楽1	音楽704	日本の音楽	沖縄の踊り		写真:琉球舞踊「四つ竹」女性2名紅型衣装	
1971	新版標準 中学音楽1	音楽704	日本の民謡	沖縄民謡	安里屋ユンタ	単旋律楽譜/沖縄教育音楽協会採譜	
1971	新版標準 中学音楽2	音楽804	日本の民謡	沖縄八重山民謡	月ぬかいしや	単旋律楽譜/歌詞意識/沖縄教育音楽協会採譜	
1972	新版標準 中学音楽3	音楽904	日本の民謡	沖縄の歌	荒磯の歌	単旋律楽譜/歌詞共通語	詞:宮里静湖 曲:宮良長包
1977	改訂標準 中学音楽1	音楽707	日本の音楽	沖縄の踊り		写真:琉球舞踊「四つ竹」女性2名紅型衣装	
1977	改訂標準 中学音楽3	音楽907	日本の民謡	沖縄八重山民謡	月ぬかいしや	単旋律楽譜/歌詞意識/沖縄教育音楽協会採譜	
1978	新版 中学音楽1	音楽710	日本の民謡をたずねて	沖縄の踊り		写真:琉球舞踊「松竹梅」女性3名	
1978	新版 中学音楽1	音楽710	日本の民謡をたずねて	沖縄県民謡	安里屋ユンタ	日本地区に沖縄あり/単旋律楽譜	
1984	改訂 中学音楽1	音楽704	郷土の音楽/郷土の民謡	沖縄の踊り		写真:琉球舞踊「バーランク」女性2名	
1984	改訂 中学音楽1	音楽704	郷土の音楽/郷土の民謡	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	日本地区に沖縄あり/単旋律楽譜/歌詞意識	
1984	改訂 中学音楽3	音楽904	郷土の音楽/郷土の民謡	沖縄県民謡		その他の民俗芸能/組踊	
1987	新訂 中学音楽1	音楽707	郷土の民謡	沖縄の踊り		写真:琉球舞踊「加那よー天」川女性2名	
1987	新訂 中学音楽1	音楽707	郷土の民謡	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	日本地区に沖縄あり/単旋律楽譜/歌詞意識	
1987	新訂 中学生の器楽	音楽710	器楽合奏	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	アルトリコーダー(2),カスターネット,小太鼓	編曲:木村博文
1990	改訂 中学音楽1	音楽710	郷土の民謡	沖縄の踊り		写真:琉球舞踊「加那よー天」川女性2名	
1990	改訂 中学音楽1	音楽710	郷土の民謡	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	日本地区に沖縄あり/単旋律楽譜/歌詞意識	
1990	改訂 中学音楽1	音楽710	日本といろいろな民族の音楽	沖縄県民謡	谷茶前節	絵:沖縄の三線/蛇の皮を張った三味線の種類	
1990	改訂 中学生の器楽	音楽713	器楽合奏	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	アルトリコーダー(2),カスターネット,小太鼓	編曲:木村博文
1993	新版 中学音楽1	音楽701	郷土の民謡	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	日本地区に沖縄あり/曲名のみ	
1993	新版 中学器楽	音楽751	郷土の民謡	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	アルトリコーダー(2),カスターネット,小太鼓	編曲:木村博文
1997	中学音楽1	音楽707	郷土の民謡	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	日本地区に沖縄あり/曲名のみ	
1997	中学器楽	音楽754	器楽合奏	沖縄県民謡	谷茶前	アルトリコーダー二部合奏	編曲:江口康央
1997	中学器楽	音楽754	器楽合奏	沖縄県民謡	ていんさぐぬ花	アルトリコーダー(2),カスターネット,小太鼓	編曲:木村博文
1997	中学音楽2・3上	音楽807	郷土の民謡	沖縄県民謡	谷茶前	沖縄音階(♭-ミ-ファ-ソ-シ)楽譜/例《谷茶前》	
2002	中学音楽1 音楽のおくりもの	音楽701	日本の祭りの音楽と芸能	沖縄県民謡		日本地区に沖縄あり/エイサー解説なし	
2002	中学器楽 音楽のおくりもの	音楽751	器楽合奏	沖縄県民謡	谷茶前	アルトリコーダーの二部合奏	編曲:滝口亮介
2002	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽801	音楽の広場	J-POP	鳥唄	混声三部合唱/コードネーム	詞曲:宮沢和史 編曲:赤石敏夫
2002	中学音楽2・3下 音楽のおくりもの	音楽802	日本の民謡	沖縄県民謡	とらばちま	日本地区に沖縄あり/楽しみ/曲名のみ	
2002	中学音楽2・3下 音楽のおくりもの	音楽802	日本の民謡	沖縄県民謡	月ぬかいしや	日本地区に沖縄あり/子もり歌/曲名のみ	

2007	中学音楽1 音楽のおくりもの	音楽705	日本の民謡と芸能	沖縄県民謡	月ぬ美しや	日本地図に沖縄あり/子守歌/曲名のみ	
2007	中学音楽1 音楽のおくりもの	音楽705	日本の民謡と芸能	沖縄県民謡	谷茶前	日本地図に沖縄あり/楽しみのための歌/曲名のみ	
2007	中学音楽1 音楽のおくりもの	音楽705	民謡の魅力	音階/沖縄音階	谷茶前	沖縄音階(レ・ミ・ファ・ソ・シ・ド)楽譜/例《谷茶前》	詞:森山良子 曲:BEGIN 採譜:鳥袋大
2007	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽805	音楽の広場	J-POP	涙そうそう	単旋律楽譜/コードネーム/曲名解説	詞:森山良子 曲:BEGIN 採譜:鳥袋大
2007	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽805	音楽の広場	J-POP	島唄	混声三部合唱/コードネーム/曲名解説	詞:宮沢和史 編曲:赤石敏夫
2007	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽805	Let's Sing	沖縄県民謡	谷茶前	単旋律楽譜/歌詞意訳/三線,三板,締太鼓,大太鼓	採譜編曲:宮里尚子
2007	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽805	音楽の広場	沖縄県民謡	月ぬ美しや	単旋律楽譜/歌詞意訳/発音,節の解説	採譜構成:宮里尚子
2007	中学音楽2・3下 音楽のおくりもの	音楽806	音楽の広場	沖縄県民謡	とらばらーま	楽譜(歌詞・囃子)/歌詞意訳/とらばらーま解説	採譜編曲:菅久原恒勇
2012	中学音楽1 音楽のおくりもの	音楽721	日本の民謡と芸能	沖縄県民謡	月ぬ美しや	子守歌/律音階(レ・ミ・ファ・ソ・ラ・ド)	
2012	中学音楽1 音楽のおくりもの	音楽721	日本の民謡と芸能	沖縄県民謡	谷茶前	楽しみのための歌/沖縄音階(レ・ミ・ファ・ソ・ラ・ド)	
2012	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽821	歌のアルバム	J-POP	涙そうそう	単旋律楽譜/コードネーム/曲名解説	詞:森山良子 曲:BEGIN 採譜:鳥袋大
2012	中学音楽2・3上 音楽のおくりもの	音楽821	歌のアルバム	沖縄県民謡	月ぬ美しや	単旋律楽譜/歌詞意訳/発音,節の解説	採譜構成:宮里尚子
2012	中学音楽2・3下 音楽のおくりもの	音楽822	郷土の民謡を味わおう	沖縄県民謡	谷茶前	単旋律楽譜/歌詞意訳/三線,三板,締太鼓,大太鼓	採譜:歌譜編曲:宮里尚子